

はばたけ

NO. 6

折木陣営者の自立をすすめる
 実行責任者 中山 全夫
 (Shimazaki Kenji)
 発行日・88・5・25(水)

才回協会を終つて

事務局長 飯田 勇

昨年の設立総会から、ちょうど一ヶ月の四日二五日、才回協会が行われまじ。一年間の活動は、いさかしく超過し、才回協会が長期休暇の時、保護者の賛助を以て、設立趣旨に沿つてもう少し具体化はす。

なぜならば、何程大団 日本で、福祉予算はけずられて施設の減量が行われる。企業への就労環境も劣化してきている状況です。また、生活環境も障害児が安心して遊べる公園など皆無である。学校の長期休業などは、家の中で遊んでいるのが一般的ようです。

以上のような障害者の状況打開のために私たちは協会において七つの柱(才回)とわりつけ

①「拠点」づくり

事務局 作業場、交流の場、そして、保護者の長期休暇の時、保護者の賛助を以て、設立趣旨に沿つてもう少し具体化はす。

②「財政」づくり

拠点の「家」をつくるために、バサー物品販売等に力を入れる。当面、寄付も金額の百万円を募集するつもりです。

③「組織」の拡大

私たちの活動をスムーズに運営できるように会員、賛助会員と数倍に組織にする。

以上を重点に力づくし決定を確立し、皆々よりご協力をお願いします。

しくお預け致します。

協会終了後、先般、ハイオリスと共同して「わらべの里」理事長 金環 重仁(Shimazaki Kenji)による「イギリスの福祉について」講演をいたしました、散会いたしました。



全取先生の講演会
 講演会資料
 を印刷いたしました。

去る5月14日(日)と、フエスタのイベントで、バサーの活動を行いました。これは、折木陣営者の活動の一環として行ったもので、本会としては、初めての試みでした。

バサーへの協力の手伝いをしたり、多くの人達に呼びかけを行ったり、結果、手土産・木工品・文芸品・古本・陶器等の販売品があり、バサー前日は、夜遅くまで賑わすも有様でした。

バサー当日は、七時三十分集合で、回帰イベントの一言のスピーチとところ狭しと商品と並べました。朋友は十時から五時



バサーの看板
 衣類中本など、ここにございませ

に、十四日の企画作は既に目玉商品販売は、学校から帰ってきた子ども達も手を洗ってあげて頑張っていました。昨日は、あいにくの雨で、だくの雨で、衣類中本など、ここにございませ

バサーの活動は、全取先生の講演会、折木陣営者の活動の一環として行ったもので、本会としては、初めての試みでした。結果、手土産・木工品・文芸品・古本・陶器等の販売品があり、バサー前日は、夜遅くまで賑わすも有様でした。バサー当日は、七時三十分集合で、回帰イベントの一言のスピーチとところ狭しと商品と並べました。朋友は十時から五時

|| 会館以外の協力を一覽 || 遊芸部 折木陣営者 飯島 恒雄 兼川 二郎 全木 展夫 高野 美代子 中島 ハル 奈良 都都子 大川 美知子 高橋 一 車幸彦 伊沢 玉日前子 飯島 孝子 森島 光枝 伊藤 美代子 前原 夏美子 杉 隆子 安サズ子 名瀬 まゆみ 高橋 基子 藤井 イク子 藤 まゆみ 沢 宗子 小池 和子 中沢 礼子 町田 いく子 八若子 町 小川 薫子 八女生所 小川 薫子 八文字 野 歩 八都賀 喫茶店 ストロベリー

会への協力 ありがとうごさいます

- 一 協力者 敬称略
- 〇 森 山 誠
- 〇 さといき 塚 周 祐
- 〇 さといき 塚 兼 教
- 〇 仔子 痛み 香枝子 1233
- 〇 ハウス 紋骨 大島 (都賀町)
- 〇 北研 藤 芳

花見の紅学園を覗きして 吉田正子

五月六日、七人の子と一入
 ()で精神薄弱者(児)更生施設・花見
 紅学園、青楓園を覗きしました。
 学園長の藤本さんから説明をうけ
 ました。学園内、農園等をみせて
 いただきました。

学園内には、牛乳パックの再利用
 用紙を紙袋を作り、名刺やハガキを
 作っていました。紙袋をすりにあ
 との乾燥のところで、掃除機を水
 分を吸い取ったり、名刺にちり
 紙をほどくとすて工夫がなされて
 これなら作業量も上まり前品価
 値も上がり感心しました。

花見紅学園では、以前からレ
 いたりと作っていました。二の
 五千本りの原木があるとのこと
 原木の置いたる雑木林に行き
 ました。林の中を原木を並べる作
 業をされていました。太陽のさす
 加減があるのが場所を決めるのも

おもしろいし、水をやめるのも大変だとの
 ことでした。農園は学園から近いが
 離れど所にありました。畑を二合分
 の形で道路がでこぼこで危険なとい
 うので、今は防木を植えてあります。
 木の幹のとれる状態ではなく、木ぎ、
 小さい、エンドウなども植わっていました。
 畑の端に農作業小屋もあり、中に
 雑草の入れかえのしりばり、病院の
 生れ24くらゐの日は、体か2とさるく
 入置院のりかえのしりばり、病院の
 看護士さん達
 になり、冬は
 すに学校へ
 眼や耳か要
 のふく入院
 するといま
 います。

生徒は又又
 くら下はか
 行つていすか
 いう、毎年
 12手納を
 します。

家族は
 兄弟がいない
 びり淋しいよと云う。多量人の集りところ
 かほろび、いっ外へお祭りかうす。
 相手の顔みみ、ニコッと笑つて手拍子
 を打つてお祭りかうす。
 目の前は地まじり声をか
 りてあげて下を、

社会福祉法人 読来(全会)
 花見紅学園青楓園
 小山市大字飯塚二丁目番地
 Tel 0285(92)4540



障害者の村づくり

私達の会は、最終目標を、「障害者としての英感、英胆を、とうしにら築ける村づくり」としています。何故、どうしてのぞしようか。そして、それはどんな意味のぞしようか。——この点について、何回かたなり考えてまいりたいと思っております。

① 会を伴った動機
 従来人のほとんどは、障害児を持つ親でございます。子供が生まれる前から、障害者としての英感、英胆を、とうしにら築ける村づくりを、何故、どうしてのぞしようか。そして、それはどんな意味のぞしようか。——この点について、何回かたなり考えてまいりたいと思っております。

私達は、「障害者の村づくり」と言っています。障害者だけが集まると特別な地域ゾーンを築うつと云うことにはありません。——ゴロニーを理想の

私達の将来にわたる希望は、何よりもです。つまり、生産・販売・流通の中に自分の力を出して、生き生きと働き、生活者の働く姿がなればなりません。活らして、欲しい、ということ。そして、文化的・社会的な活動の伴った「障害者が安心して働き学ば生活してこれる必要があります。早く、誰か、いけるために——と全明に誓ったのぞい、演じの表現世界です。これから、どうしことを念頭に置いて、そして、その希望が、実現する障礙は、「村づくり」のことを考えてまいり、何よりも「地域の人々と共に生きる喜

私達は、「障害者の村づくり」と言っています。障害者だけが集まると特別な地域ゾーンを築うつと云うことにはありません。——ゴロニーを理想の

農業作業員
 5月17日 ラティッシュ収穫
 サニレース 収穫
 5月10日 トウモロコシ雑除除草
 5月下旬 二回日ジャガイモまき
 (予定)

ラティッシュが売れて、畑からの初めての収益は1000円也です。

全員の力を合わせて、
 花見紅学園を
 一後記

